

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 1 月 8 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (1/8 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1 号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	18.1 °C	106.2 kPa abs	A系： 0.05 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.07 vol%
2 号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.0 m ³ /h	25.5 °C	6.95 kPa g	A系： 0.06 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.05 vol%
3 号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.5 m ³ /h	25.0 °C	0.23 kPa g	A系： 0.09 vol%
		給水系：約 1.8 m ³ /h			B系： 0.08 vol%

*1：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【2号機原子炉注水流量変更】

- ・ H26/1/8 10:17 汚染水処理の負担低減および原子炉冷却のリスクを総合的に判断し、炉心スプレイ系の注水流量を 1.0m³/h 低減させる。最初の操作として炉心スプレイ系の注水流量を 3.5m³/h から 3.0m³/h へ変更(給水系からの注水量は約 2.0m³/h で継続中)。操作終了後、冷却状態を確認し、1週間を目処に炉心スプレイ系の注水流量を 3.0m³/h から 2.5m³/h へ変更予定。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (1/8 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1 号機	循環冷却システム	運転中	12.0 °C
2 号機	循環冷却システム	運転中	10.5 °C
3 号機	循環冷却システム	運転中	8.9 °C
4 号機	循環冷却システム	運転中	17.0 °C

※各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウエルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

- ・ H25/11/18 15:18～ 4号機使用済燃料プールから燃料を取り出す作業を実施中。なお、同作業は平成 26 年末頃まで行う予定。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
3 号機	3 号機タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容処理建屋 [高温焼却炉建屋])	12/17 16:00 ~ 移送実施中
6 号機	6 号機タービン建屋	仮設タンク	1/8 10:00 ~ 15:00 移送実施

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (1/8 11:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)	多核種除去設備(ALPS)
運転状況	停止中	運転中*1	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 当面は、3 系列のうち 2 系列による運転を実施することで 2 系列運転の稼働率を向上させていくこととし、準備が整い次第、3 系列の同時運転を実施予定。

- ・ B系：平成 26 年 1 月下旬頃(予定)に腐食対策有効性確認のため、処理運転を停止予定。

- ・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- ・H26/1/6 11:50 頃 第二セシウム吸着装置（サリー）B系セシウム吸着塔下部の配管付け根部分に、微量のにじみをパトロール中の福島第一原子力規制事務所の原子力保安検査官が発見。にじみの状況に変化がないことから、現状では追加的な漏えいはないものと判断。当該箇所付近の表面線量測定を実施した結果、当該吸着塔が設置されているエリアにおける雰囲気線量（バックグラウンド）と同等の値であることを確認。

【線量測定結果】

- 当該箇所の表面線量測定値：約 0.10mSv/h（ガンマ線）
約 0.03mSv/h（ベータ線：70 μ m 線量当量率）
- 雰囲気線量測定値：約 0.025mSv/h（ガンマ線）
約 0.00mSv/h（ベータ線：70 μ m 線量当量率）

にじんでいた水について、スミヤロ紙に吸着させ測定を実施した結果、約4,000cpmを検出。

- H26/1/7 あらためて当該部の表面線量測定を実施し、雰囲気線量（バックグラウンド）と同等であり、汚染水の漏えいではないことを確認。また、当該部についてスミヤロ紙による再測定を実施し、300cpmであることを確認。なお、にじみ痕等の状況については、再度現場確認を行い、変化がないことを確認。

以上のことから、にじみのあった水は当該吸着塔を使用前に屋外に保管していた際に、遮へい容器の隙間部から浸入した雨水と判断。

今回のにじみは吸着材容器の健全性に影響するものではないが、雨水浸入防止の観点から以下の通り対策を実施する。

1. 使用済み吸着塔を優先して、遮へい容器の隙間部のコーキング処理を実施する。
2. 未使用の吸着塔についても、隙間部のコーキング未実施のものについて、コーキング処理を実施する。
3. 新製の吸着塔については、製作にあわせて雨水浸入部のコーキング処理を継続して実施する。

- ・H26/1/7 多核種除去設備B系において、H I C交換作業中にクレーンに不具合が発生したことから、H I C交換作業を中断。

今後、不具合箇所を特定し、部品を交換した後に順次H I C交換を行い、多核種除去設備の処理を再開する予定。

< 5. その他 >

- ・H26/1/9～ 1～4号機取水路開渠内入口におけるシルトフェンス交換予定。

【H4エリアタンク等からの水の漏えい関連】

<トピックス>

- ・H25/12/10 10:10～ 汚染水拡散の防止策として、H4エリア周辺に設置したウェルポイントから地下水の汲み上げを再開。

<タンクエリアパトロール実績（1/7）>

- ・高線量当量率箇所（ $\beta + \gamma$ 線（70 μ m線量当量率））は確認されず。
- ・堰床部に雨水が溜まった箇所については、雨水による遮へい効果により線量当量率は低い状態となっている。
- ・目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと（漏えい確認ができない堰内溜まり水内を除く）を確認。
- ・汚染水タンク水位計による常時監視で、タンク水位に異常がないことを確認。

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して有意な変動なし。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して有意な変動なし。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

<トピックス>

- ・1, 2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット（南）地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は1/8 0:00時点で約7,016m³ *集水ピット（南）およびウェルポイントの総量

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して有意な変動なし。

<移送関係>

- ・2, 3号機東側に設置したウェルポイント（バキュームによる強制的な排水設備）からの地下水汲み上げおよび2号機タービン建屋への移送を適宜実施中。

- ・H25/12/11～ 1, 2号機間護岸エリア地下水観測孔 No. 0-3-2 でトリチウムが検出されていることから、当該観測孔からの地下水の汲み上げを試験的に適宜実施中。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<トピックス>

- ・H25/7/1～ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。
- ・H25/10/3～ 地下貯水槽 No. 1 の汚染範囲調査開始。
- ・H25/10/23～ 地下貯水槽 No. 6 において浮き上がり対策を実施中。
- ・H25/11/15～ 地下貯水槽 No. 5 において浮き上がり対策を実施中。
- ・H25/11/19～ 地下貯水槽 No. 1 において浮き上がり対策を実施中。
- ・H25/11/28～ 地下貯水槽 No. 3 において浮き上がり対策を実施中。
- ・H25/12/7～ 地下貯水槽 No. 2 において浮き上がり対策を実施中。
- ・H25/12/16～ 地下貯水槽 No. 7 において浮き上がり対策を実施中。

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以 上